

巻頭言

2009.1月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

受験は心の勝負です。

茗溪塾塾長 宇野 雅春

年も明け、「受験」がスタートします。冬期講習・正月特訓・茗溪模試というハードスケジュールをともにこなしてきて、いよいよ受験本番という厳しい流れですが、あと少しです。最後まで頑張りたいと思います。正月特訓や茗溪模試は、生徒のモチベーションと集中力の強化のために欠かせないものです。今までの経験上で言うところからの目覚めと頑張りだけでも、力を伸ばした生徒がたくさんいます。また、倍率の高い受験にはこれが一番重要です。学習内容の習得はもちろん最重要ですが、この集中力の鍛錬とやる気が、一点を争う受験ともなると大きくものを言います。

ただ気をつけなければいけないのは、今まであまりちゃんとやってこなかった生徒に起こりがちな、「焦る!」ということです。それは高校入試に一番顕著に表れます。何度も口を酸っぱくするくらいに言っている、一番良くない傾向が出てきます。「もう間に合わない! どうせ自分なんか駄目」「もっとわかる勉強がしたい!」などです。でも、このことも否定的な意味ばかりではありません。やっと自分が何をしたいのか、何をしなければならないのかが判ってきたということだからです。何かに気が付くということは大切なことですが、「後悔」や「反省」というリスクをとくもありません。ここで全てをおじゃんにする生徒もいます。「こもって、自分でやる」というようなことです。集中できなかったことをまわりのせいにし、成績が上がらなかったことを教材のせいにしてしまいます。こもってもっと簡単な基本的な勉強を始めたいと思うのです。ここはちょっと待て! です。受験のレベルに届かない勉強を今からはじめて、「合格」はあり得ません。それなのに本気でそんなことを考えます。結局、今まで思うように勉強をしなかった自分が、自分の出来る範囲に学習を限定して「こもる」わけです。ここまで来てそういうことが起こると、おそらく受験成功の可能性は0になります。

正月特訓や茗溪模試でも多くの先生が、メッセージの中でそんな危険について話していました。どの先生も辛い経験として記憶しているからです。間違っているのに説得しきれなかった弱さを悔やんでいるのです。受験のレベルを下げないために、自分の方がそこに届く努力をどうやるのが課題なのです。今の今まで出来なかったことはおいて、そこは踏みとどまり、その上での努力を気が付いた瞬間から始めるしかないということなのです。

基礎からやるということは、むしろ自分でいつでも出来ることです。やろうと思ったその瞬間からでも始めればいいのです。どの受験でも、この気づきの瞬間から大きくのびて、最後には成功した生徒をたくさん見えています。受験直前でもそれはたくさんあります。自分の勉強に反省点が見えてきたことをむしろ喜ぼう! と言いたいのです。

こんな時、親は子供のペースに巻き込まれてはいけません。怠けていた自分が変わらなければ、何をやっても結果は一緒です。

受験生にとって本当に苦しい時期になります。どのレベルのどんな生徒でも、この苦しさから逃げることは出来ません。苦しいのは自分だけでないことを知ろう。そして、そういう時期に自分が一番伸びるのだということも知って欲しいと思います。今まで勉強してきた自分を信じ、仲間を信じ、先生を信じて、その上に努力を重ねていくこと。これ以外に、自分を伸ばす方法はありません。

受験は、心の勝負です。何度もおそってくるたくさんの困難をはねのけなければなりません。戦う相手は「自分」です。みんなの気持ちが今年は今まで以上にひしひしと伝わってきます。30年以上も受験に関わってきて、年ごとに生徒の気持ちが分かってきたからかもしれません。自分が苦しい時は、誰もが苦しいときです。私もそのことを心に念じて、今年の受験を戦っていきたくと思っています。